

特選入賞論文

確かな読みの力をつけるために 言葉をどう取り上げればよいか

— 説明的文章を中心として —

浪江町立荊野小学校教諭

佐藤 百合子



一、研究主題設定の理由

昨年度本校では、「確かな読みの力をつける学習指導法」というテーマを
かかげ、説明的文章を中心とする方策
をさぐってきた。その結果、児童の興
味や好奇心を前面に押し出して授業を
進めることの大切さが実証され、意欲
的に取り組む児童の姿も見られるよう
になった。しかし、次のような問題点

が浮かんできた。

- ばく然とした印象的な読みからぬ
け出せない児童が多い。
- 何について書いてあるのかという
中心話題や主題がつかめない。
- 指示語・接続語の働きが理解され
ていない。

説明文の指導では、内容を追究する
価値的目標と、読解するうえでの技能
的目標とが、同時に追究できるように
考えなければならぬ。文章構成や指
示語・接続語などにこだわりすぎるの
はよくないが、文の相互関係・段落の
要点やまとまりなどが分かるために、
きめ細かな論理的読みを進めていくこ
とは、やはり大切であると考える。

山村地帯に生活し、語いのあまり豊
富でない本校の児童にとっては、もっ
と語句や言葉に目を向け、大事なこと
を叙述に基づいて読み取らせたいと考
え、本主題を設定した。

二、研究仮説

中学年における説明的文章読解の技
能的目標の中心は、三年生では段落の
要点の理解であり、四年生では段落相
互の関係の理解である。これらは、読
字力・語句の理解力・文法力などに支
えられながら、段階的に培われていく
ものであると考える。

そこで、「確かな読みの力」を、
○段落の要点がまとめられる力
○段落相互の関係が分かり、意味段落
にまとめることのできる力
と考え、次のような仮説を設定した。

一つ一つの段落が、何について述
べているかが分かれば、その視点
で全体を見通すことができ、確か
な読みの力をのばすことができる
であろう。

三、研究計画

- (一) 第一次実態調査
○読解力診断テスト（低学年二〜四年）
主題・詳細・推測・指示・批判
- (二) 読書力診断検査（小学校中学年三・
四年）教研式全国標準A形式、読字
力・語い力・文法力・読解鑑賞力
- (三) 研究主題、研究仮説設定
- (四) 第一次検証授業
○単元名 段落に気を付けて
教材 カプトガニ
キョウリウウの話
- (五) 第二次検証授業
○単元名 段落ごとのまとまりをとら
えて
教材 ガラスの利用
- (六) 児童の変容（第二次実態調査）
研究の考察とまとめ

四、研究の対象者

○四年一組 二十六名

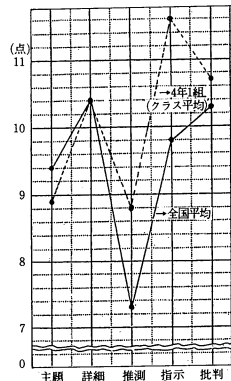
五、研究の実践

- (一) 児童の実態（第一次実態調査）
1) 読解力診断テストから（資料1）
○ 主題読みに落ちこみがみられる。

これは、何が書いてあるのかの大体
の内容を把握し、中心となっている
話題をとらえる力が不足しているこ
とを示している。また、文章の題は
中心話題と密接に関係しているとい
う認識の低さも表している。

○ 一年間「確かな読みの力を育てる」
指導をしてきたが、詳細読みの力も
伸びきっていない。これは、文にも
どって考えようとする態度の不足、
文と文との関係を見ぬぐ力の不足に
よるものと考えられる。

〔資料1〕読解力テスト・分野別平均
得点グラフ



(2) 読書力診断検査から（資料2）

○ 文章を読み取る力を、読字力・語
い力・文法力・読解鑑賞力から分析
すると、文法力の不足が目につく。
これら四つは、国語の基礎的能力で
あり、その不足が明らかである。

○ 内容を概観する時は、文法的事項
の理解が十分でなくとも間に合う。
また、内容の話し合いでは事柄に注
目がいき、文法的事項である指示語
や接続語の働きなどには、あまり注
意がはらわれていない結果であり、
指導上の問題を表している。（詳細は略）